

平成29年度 第1回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：平成29年7月4日（火）14時00分～16時30分

場 所：尾道市立大学E棟1階120会議室

出席者：尾道市公立大学法人評価委員会 堂本委員長、森田委員、瀬戸委員、萩原委員
事務局 小田原主任、石井主事

公立大学法人尾道市立大学 中谷理事長、菅理事、藤澤理事、寺山理事、
邵経済情報学部長、吉原芸術文化学部長、
有吉教授、石井総務課長、土岸総務課長補佐、
崎丸学務課長、斉藤企画広報室長、堀江係長、
森下主任、三上主事

- 報告事項：1 平成28年度第4回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
2 公立大学法人尾道市立大学平成29年度年度計画について
- 議 題：1 平成28年度業務実績評価について
2 平成28年度財務諸表及び利益処分に関する意見について
3 公立大学法人尾道市立大学中期目標（第2期）について

【報告事項】

- 平成28年度第4回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
平成28年度第4回評価委員会議事要旨について、審議の結果、全会一致で承認することとし、速やかに公開することとした。
- 公立大学法人尾道市立大学平成29年度年度計画について、大学から説明を行った後に、次の意見が出された。

第2 重点取組項目について

（委員長） 重点取組項目として教育、研究、地域貢献、国際交流の4項目を掲げているが、第1期の中期計画が今年度で最終年度になるため、必ず取り組むべき項目という視点があるのか、あるいは第2期の中期計画に向けて取り組んでいくために掲げたのか、その意図を教えて欲しい。

（大学） 第1期の中期計画の年度計画にも毎年掲げるようにしているが、いずれの項目も重要で欠かすことができず、来年度から始まる第2期に向けて継続していかなければならないと考え掲げている。

【議 題】

1 平成28年度業務実績評価について

平成28年度業務実績評価について、大学から説明を行った後に、次のような議論が行われた。

(委員長) 自己評価は、どのようなプロセスで評点を付けているのか。

(大学) まず学部学科、委員会等が自己評価を入れ、その後自己点検評価委員会で評価が正しいか判断を行い、結果をまとめている。

(委員長) 最終的な決定は、評価委員会で協議しているのか。また結果内容は、全教員が目に見えているのか。

(大学) 理事会や経営審議会等で審議決定するにあたって、教授会等において内容について確認をしてもらい資料として提出しているため、全教員が見られるようにしている。

第4 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育の質の向上に関する目標

(1) 質の高い教育課程の編成

(委員) C O C + について、参加校は主に広島西部に所属する大学で、尾道市立大学は東部に位置していて、単位互換科目として開講するにあたり、学生が他大学に出向いて受講することが距離的に困難だとは思うが、受講を促進するような策があるか。

(大学) 広島市立大学が代表校で、本学は芸術系の学科があるので、アートプロジェクト等との連携が可能ではないかということに参加をした。C O C + では、様々な大学が行っている科目が総合的に各大学で受けられるという趣旨で学生に周知を図っているところではあるが、交通費等の助成も少なく、積極的な参加には至っていないため、今後の課題である。

(委員長) 連携校の提供している科目は、基本的に学生が出向く形になるのか。

(大学) 基本は学生が受講に出向くが、遠隔で受講ができる科目もある。

(委員) 学生カルテについて、活用方法を教えて欲しい。

(大学) 毎月学習内容を記録させて、定期的に振り返りながら学習に対する習慣づけを行う。教員側は、学生が行った学習内容と自習時間を把握するために活用している。

(委員) 授業評価アンケートについて、回答率はどの程度か、また活用方法について、どのような取り組みを行っているか。

(大学) 回答率は、約40%である。基本的には、アンケート結果を受けて改

善した箇所の報告を**教育研究活動**報告書の中で行っているが、教員から学生に回答結果が届く形になっておらず、今後改善していく必要がある。

第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

1 地域貢献に関する目標

(2) 地域での人材育成と学習機会の提供

(委員) 地域の小、中学校において、ワークショップを行っている中で、学校側の意向で授業の変更等あると思うが、どのように対応しているか。

(大学) 昨年末まで行っていたワークショップでは、小学校での学級新聞を発行する過程で、教員と学生が実際に授業に入り、取材から記事のまとめ方等のアドバイスを行っている。小学校のスケジュールに合わせて行うので、時間の調整は必要であるが、学校側の要望に合わせて行っている。

2 国際交流に関する目標

(1) 国際交流の促進

(委員) ダブルディグリーの受け入れについて、尾道市立大学から提携校への派遣はあるか。また授業は日本語で行っているか。

(大学) 現在は提携校からの学生の受け入れがあり、授業は日本語で行っているが、尾道市立大学からの派遣には至っていない。

(委員長) ハワイ大学との協定締結に向けての準備は、どの程度進んでいるのか。

(大学) 尾道市立大学から協定書と覚書案を提出しており、相手側からの最終的な返事を待っている状態で8割方進んでいる。また春休みに語学研修を進めたいと考えておりプログラムもほぼ決定していて、あとは課外活動の内容について確認を待っている状態である。

(委員長) 教員間での交流も協定に入っているのか。

(大学) 教員間での交流も入っている。

(委員長) 教員間の交流が増えれば学生もそこに加わっていくので、良いことだと思う。

第7 財務内容の改善に関する目標について

(1) 外部資金等の獲得

(委員長) 受託研究について、昨年度よりも10件の増加だが、どのような分野を行っているのか。

(大学) 美術学科の教員、学生が行っているものが、ほぼ全てを占めている。一部違うのが、昨年度尾道市から委託を受けたもので、市内の小学校の

統廃合により、新たに開校された小学校校歌の作詞を日本文学科の教員が手掛けた。

(委員) 全体的に見てみると、今年度は科研費や受託研究、TOEICの受験者数など、様々な分野で飛躍的に数字が伸びていて、具体的に動き始めていると感じている。

2 平成28年度財務諸表及び利益処分に関する意見について

平成28年度財務諸表及び利益処分に関する意見について、大学から説明を行った後に、次のような議論が行われ、全会一致で承認された。次回評価委員会において意見書について審議を行うこととした。

(委員) キャッシュフロー計算書について、減額の項目が多いが要因は何か。

(大学) 昨年度からの変更部分は、後援会から翠明館の寄付を受けた点である。事務業務の代行については大学の事務局が行っているため、現金から資産に変わった部分が多い。

(委員) 剰余金は、今後も増加すると考えてよいか。

(大学) 第1期中期目標期間は今年度末までで、目的積立金は、教育研究充実積立金と利益剰余金を合わせた金額である。大学としては、目的積立金として継続して維持していきたいと考えているが、市との協議になる。

3 公立大学法人尾道市立大学中期目標(第2期)について

中期目標について、事務局から説明を行い、次のような意見が出された。また中期目標の内容について、次回評価委員会において審議を行うこととした。

第4 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育の質の向上に関する目標

(3) 専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成

(委員) 第1期の目標では(3)の「専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する」という項目が記載されているが、第2期の目標では記載されていない。

第2期の目標には「グローバル人材の育成をする」との記載があるが、グローバル人材の育成は即座にできるものではなく、大学が本来行うべき専門教育により能力を身につけることで達成されるものであると考えてい

る。大学の教育として常に念頭に置くべき項目で、目標には欠かす事ができないと思う。

4 その他

次回評価委員会を7月28日(金)に行うこととした。